

第14章

復興策

第1節 人口等各種データ (148)

第2節 玄界島復興プラン (151)

第3節 島民の取り組み (153)

第1節 人口等各種データ

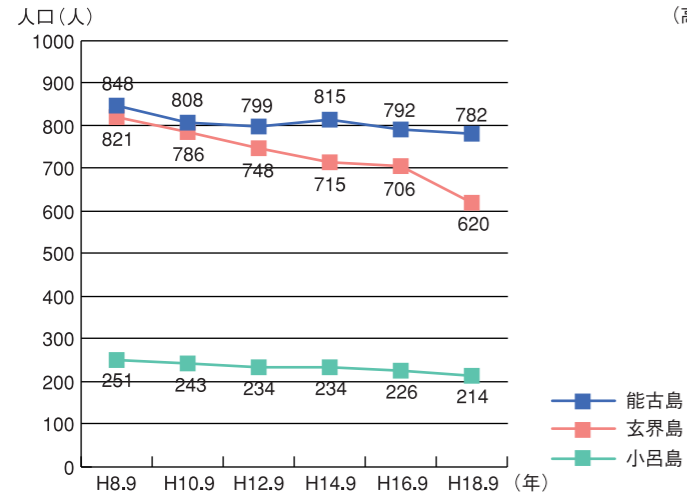
1 人口、高齢化率(住民基本台帳)

＜少子高齢化・人口減少の進行＞

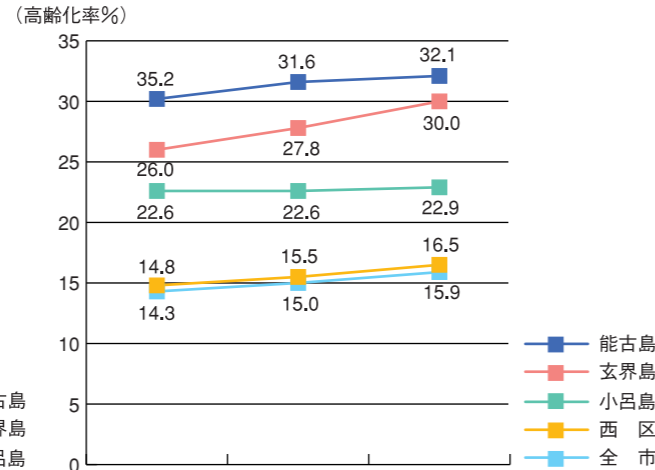
平成18年9月30日現在の住民基本台帳によると、玄界島の人口は620人(213世帯)で、平成8年の調査821人(228世帯)から大きく減少している。また、周辺地区と比較すると平成8年から18年までの10年間で、小呂島-14.7ポイント、能古島-7.8ポイントに対して、玄界島は-24.5ポイントの減少を示している。

更に、65歳以上の人口の割合(高齢化率)が30.0%、15歳未満の人口の割合が9.7%と、今後も過疎化、少子高齢化、核家族化が進むことが予想される。

＜人口の推移(住民基本台帳)＞



＜高齢化率の推移(住民基本台帳)＞

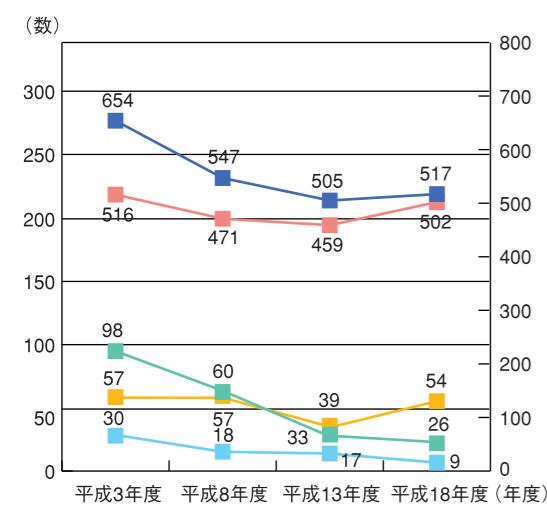


2 児童・生徒数(教育統計年報)

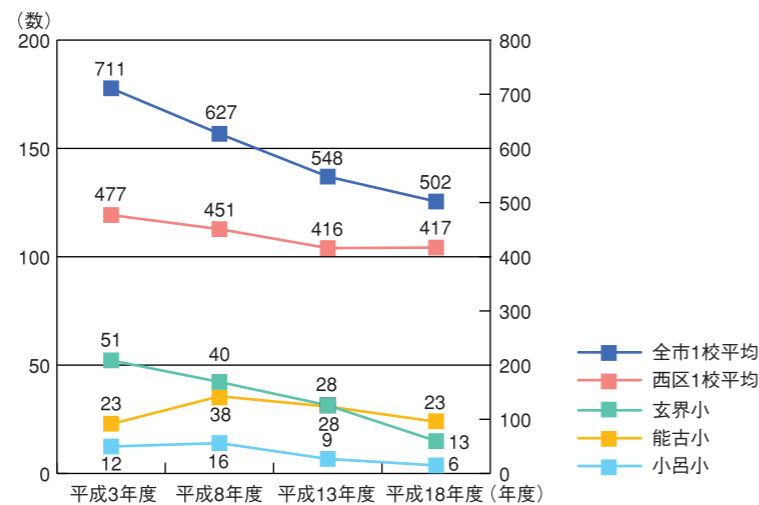
＜児童・生徒数の大幅減少＞

平成19年度教育統計年報(5月1日現在の数値)によると、玄界小学校の児童数は19人、玄界中学校の生徒数は13人になっており、平成3年度と平成19年度を比較すると児童数-79人(-80.6ポイント)、生徒数-38人(-74.5ポイント)と大幅に減少している。また、周辺地区も同様に平成3年度と平成19年度を比較すると、小呂小-20人(-66.7ポイント)、小呂中-6人(-50ポイント)、能古小+5人(+8.8ポイント)、能古中+18人(+78.3ポイント)となっており、玄界小中学校の児童・生徒数が周辺地域よりも急激に減少している状況が見て取れる。

＜小学校児童数の推移(各年度5月1日)＞



＜中学校生徒数の推移(各年度5月1日)＞

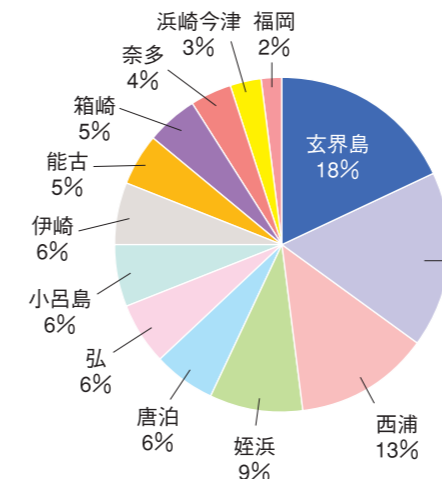


3 漁業(福岡市統計書)

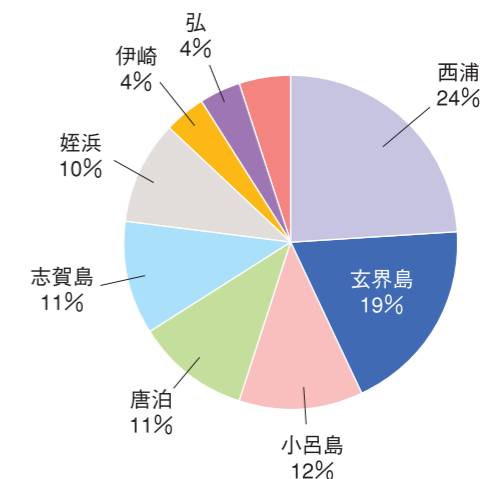
＜厳しさが増す漁業経営＞

玄界島は福岡市の重要な漁業拠点の一つであり、本市における漁業世帯数の約18%を占めている。漁業は島の主産業であり、一本釣り漁業、延縄漁業等の漁船漁業が中心であるが、他の漁業地区と同様に就労者、水揚げ高共に減少傾向にあり、近年の原油価格の高騰に伴い、漁業経営は一層、厳しさを増している。

＜福岡市の沿岸漁業就業世帯数の割合＞



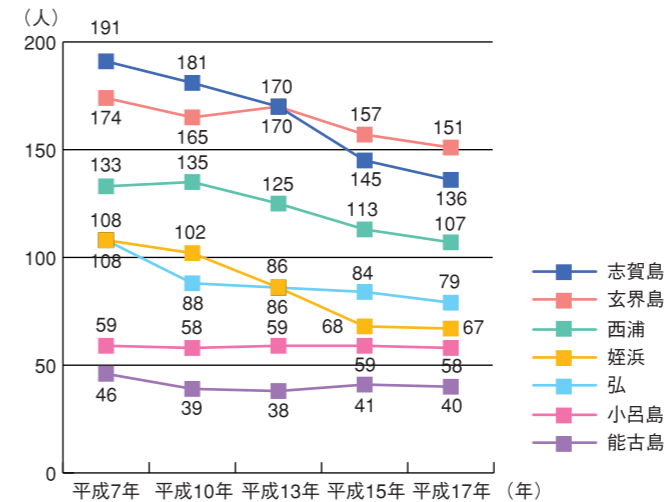
＜福岡市の沿岸漁業地区別生産額＞



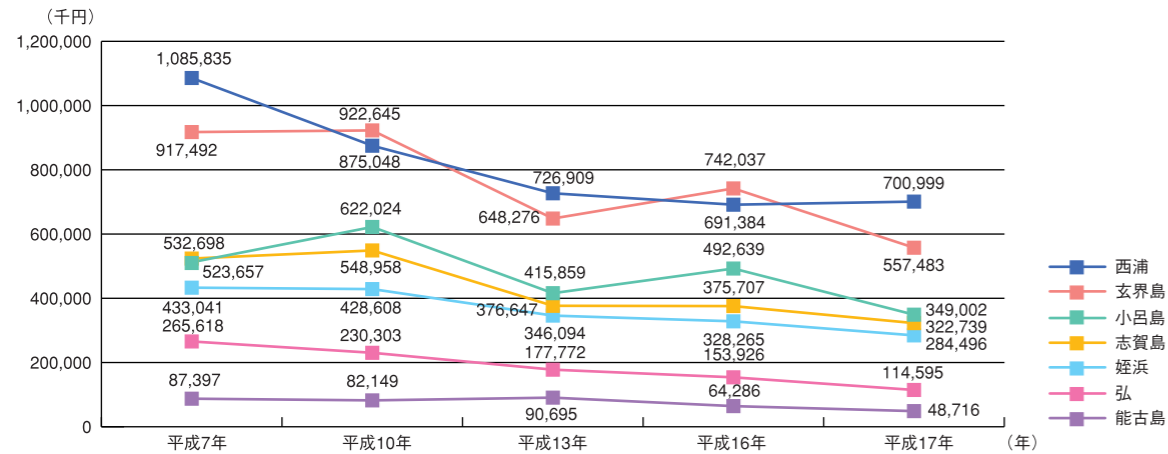
〔平成18年版福岡市統計書〕

玄界島は福岡市漁業共同組合の中で最も正組合員が多いが、他の地域と同様、その数も減少傾向にある。(平成7年と平成17年を比較するとおよそ78%に減少。)

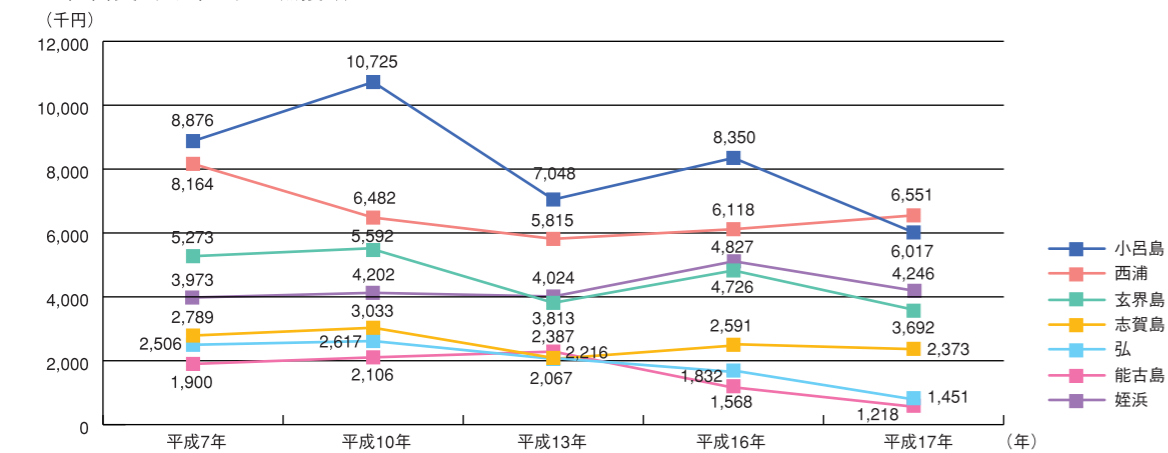
＜正組合員数の推移＞



＜沿岸漁業の漁獲額＞



＜正組員1人当たりの漁獲額＞



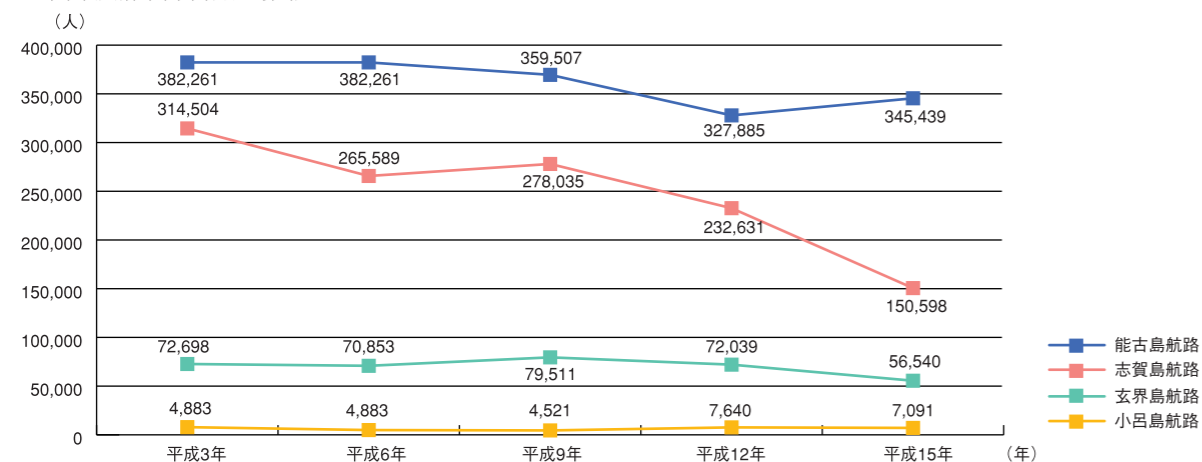
玄界島は福岡市漁業共同組合の中で第2位の沿岸漁業漁獲額を誇っているが、他地域同様、平成7年と平成17年を比較すると、約6割程度に減少している。一方、正組員1人当たりの漁獲額で他地域と比較すると一本釣り等、個人経営の漁業が盛んな玄界島は市内第4位であり、漁業経営の効率化が課題となっている。

4 交通(福岡市統計書)

＜利用者の減少傾向が続く市営渡船＞

平成9年に新船「ニューげんかい」を就航し、1日7便を運行しているが、運行ダイヤの見直し等の更なる利便性向上に課題を抱える一方、利用者が増加せず厳しい経営状況となっている。

＜市営渡船乗降客数の推移＞



第2節 玄界島復興プラン

今回の復興事業に伴い、島の状況は一変し「被災地玄界島」として有名になったものの、前節のとおり、玄界島を取り巻く環境は厳しく、人口の減少等、島の抱える課題に変わりはなかった。

福岡市では離島である玄界島の課題解決に少しでもつながるよう、被災直後から玄界島復興計画の検討と合わせ、「基盤の再生と共に、地域産業・コミュニティ再生を連動させるため、島民との共働により玄界島復興プラン(復興の目標像)を策定し、島民の主体的な取り組みを誘導したい」と考えていた。

そのため、復興委員会及び福岡市は、第7章で述べたとおり、意向調査、ワークショップ、座談会等を通じて、玄界島の将来像について、島民からの意見を募った。しかし、このような会では島民から夢と希望がある様々な意見が多く出されるが、意見を具体化するの当事者である島民という認識は少なく、全て行政に対しての要望に近かった。特に被災から約2年(平成19年度)までの間、大部分の島民は仮設住宅での生活を余儀なくされ、復興後の生活の基盤となる住宅の目処が立っておらず、島の将来よりも自分達の生活の将来について思案することが精一杯であった。復興委員会でも、福岡市から幾度となく、島の将来、島の振興についての説明が行われたが、「島の将来像」と言っても具体的な意見交換や取り組みには中々発展しなかった。

しかし、平成19年夏には、戸建て住宅の宅地の位置決めや市営住宅の住戸タイプ別の配置図が島民に配付され、少しずつ生活の基盤となる住宅の復興にも目処が立ち始め、同年10月30日に行われた天皇・皇后両陛下の行幸啓を契機に少しずつ島民主体の活動が行われるようになった。

この頃から、福岡市は再度復興委員会に対し、島の課題、将来像、振興に関する議題を投げかけ、ようやく、本格的な議論に発展した。その結果、次のとおり5つの目標像を掲げ、また、その目標像を復興事業が完了した際の復興宣言とすることとした。

- 目標 1

災害に強く安全・安心なしまづくり

災害に強い基盤整備を行うと共に、情報伝達機能強化などにより安全なしまづくりを目指します。また、交通安全に対する認識を高め、新しい住環境の中で安心して暮らせるしまづくりを目指します。
- 目標 2

震災を契機とした島内外、世代を超えた交歓のしまづくり

島民同士、または、島外との交流の場づくり、仕組みづくりに取り組みます。
- 目標 3

豊かな自然環境を活かした元気で美しいしまづくり

水産業の振興や新たな産業の構築を図り、島内や本土での就業機会を確保し、魅力あるしまづくりに取り組みます。
- 目標 4

健康福祉のしまづくり

全ての島民が住み慣れた家庭や地域で安心して暮らし続けることができる、健康福祉の充実したしまづくりを目指します。
- 目標 5

伝統・文化が息づくしまづくり

島の伝統・文化を若い世代へ伝承するための仕組みづくり・場づくりに取り組み、情報発信に取り組みます。

特に目標像3に関する議論では、玄界島は旧来、島外の人を受け入れにくい閉鎖的な雰囲気があり、高齢者を中心に「震災前と同様、静かな玄界島」を望む声が多くあったのも事実であり、復興委員会では「本当に島外の人たちに玄界島に来てもらいたいのか、閉鎖的な島のままでよいのか」熱心に議論が行われた。その結果、復興委員会としては「人口も減少しており、少しでも島外の人たちに来てもらうべきだ、そのためには島内でのルールも考える必要がある」という結論に至った。

また、同時期に復興委員会では、しまの振興に向けた玄界島の取り組みの1つとして、できることから始めようという考えのもと、「遠見山のやまみちづくり」について検討がはじまった。その内容は次節で述べる。

以上のように、被災から長期にわたり、福岡市と復興委員会で島の目標像について協議を重ねた「5つの島の目標像」と具体的な取り組みの1つである「遠見山のやまみちづくり」は、平成19年12月8日に行われた第8回島民総会で島民総意の了承を得た。

第8回島民総会資料

●●● 玄界島復興プラン ●●●

1. 玄界島復興プランとは？

2. これからの課題

3. どのような目標を目指すのか？

4. しまづくりの活動案

5. しまづくりの目的

6. しまづくりの活動案

7. しまづくりの目的

8. しまづくりの活動案

9. しまづくりの目的

10. しまづくりの活動案

11. しまづくりの目的

12. しまづくりの活動案

13. しまづくりの目的

14. しまづくりの活動案

15. しまづくりの目的

16. しまづくりの活動案

17. しまづくりの目的

18. しまづくりの活動案

19. しまづくりの目的

20. しまづくりの活動案

21. しまづくりの目的

22. しまづくりの活動案

23. しまづくりの目的

24. しまづくりの活動案

25. しまづくりの目的

26. しまづくりの活動案

27. しまづくりの目的

28. しまづくりの活動案

29. しまづくりの目的

30. しまづくりの活動案

31. しまづくりの目的

32. しまづくりの活動案

33. しまづくりの目的

34. しまづくりの活動案

35. しまづくりの目的

36. しまづくりの活動案

37. しまづくりの目的

38. しまづくりの活動案

39. しまづくりの目的

40. しまづくりの活動案

41. しまづくりの目的

42. しまづくりの活動案

43. しまづくりの目的

44. しまづくりの活動案

45. しまづくりの目的

46. しまづくりの活動案

47. しまづくりの目的

48. しまづくりの活動案

49. しまづくりの目的

50. しまづくりの活動案

51. しまづくりの目的

52. しまづくりの活動案

53. しまづくりの目的

54. しまづくりの活動案

55. しまづくりの目的

56. しまづくりの活動案

57. しまづくりの目的

58. しまづくりの活動案

59. しまづくりの目的

60. しまづくりの活動案

61. しまづくりの目的

62. しまづくりの活動案

63. しまづくりの目的

64. しまづくりの活動案

65. しまづくりの目的

66. しまづくりの活動案

67. しまづくりの目的

68. しまづくりの活動案

69. しまづくりの目的

70. しまづくりの活動案

71. しまづくりの目的

72. しまづくりの活動案

73. しまづくりの目的

74. しまづくりの活動案

75. しまづくりの目的

76. しまづくりの活動案

77. しまづくりの目的

78. しまづくりの活動案

79. しまづくりの目的

80. しまづくりの活動案

81. しまづくりの目的

82. しまづくりの活動案

83. しまづくりの目的

84. しまづくりの活動案

85. しまづくりの目的

86. しまづくりの活動案

87. しまづくりの目的

88. しまづくりの活動案

89. しまづくりの目的

90. しまづくりの活動案

91. しまづくりの目的

92. しまづくりの活動案

93. しまづくりの目的

94. しまづくりの活動案

95. しまづくりの目的

96. しまづくりの活動案

97. しまづくりの目的

98. しまづくりの活動案

99. しまづくりの目的

100. しまづくりの活動案

第3節 島民の取り組み

〈遠見山のやまみちづくり〉

しまの振興に向けた第1歩として、「遠見山へのやまみちづくり」に取り組むことが決まった後、復興委員会では、島民のみで行えるのか、NPO等のお手伝いを借りて行のかの検討や具体的にどのような計画で行うのかという議論になった。

しかし、島民の大部分は漁師であり、仕事の休みは天候次第(時化の日が休み)になることから、具体的に実施日は決められず、天候を見ながら時化の日の前日に、翌日に実施することを決め、島内放送で全島民に参加を呼びかけることとなった。

実際には平成20年2月6日に約160名参加して遠見山への登山ルートの整備を行ったのを皮切りに、2月17日には約130名が参加して東側の灯台へ続くルートを整備し、2月24日には約100名が参加して西側へと続くルートの整備を島民のみで行った。

参加した島民はそれぞれ鎌やくわを持参し、復興委員を中心に参加者を班分けし、朝8時過ぎから現場に入っていた。まずは草刈りから危険と思われる箇所への補修等を行い、出来る範囲で階段や手摺りを設置していった。

当初、島民のみで無計画な整備を行うには限界があり、着手しても草刈り程度で終了してしまうのではないかと心配があったが、実際には、全く心配する必要が無いほど、見事に島民総出で協力し合いながら、立派なやまみちづくりを行うことができた。

今回、整備したやまみちをしまの振興策に活かすことが出来るよう、島民の今後の取り組みに期待している。

〈博多どんたく港まつりへの参加〉

復興委員会では「しまびらき」と称し、被災から約3年間で無事玄界島が復興したことを広く市民の皆様にお伝えすると共に、多くの方々からの支援に対する感謝の意を表すため、平成20年5月に行われる「博多どんたく港まつり」に参加することを決定し、同年3月1日に開かれた第9回島民総会において、その旨を報告し、了承を得た。

以上の通り、玄界島の基盤や住宅の再整備が進み、島の復興が目前になって漸く、少しずつではあるが玄界島の振興に向けた島民の自主的な活動が始まりました。島の永い歴史を大きく変えた「被災」というピンチを、逆にチャンスに捉え、後世の人々に喜んでもらえる玄界島を目指し、少しずつでも島民の自主的・自発的な取り組みが継続されることを期待する。



島民によるやまみちづくり

